

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. ～東京湾の環境改善に実証試験用の浅場を整備～ 魚たちの産卵場、子育て場となる「アマモ」を再生する活動の場として、横浜港臨港パークの前面海域に実証試験用の浅場を整備しました。

関東地方整備局
港湾空港部

関東地方整備局では、東京湾水環境再生計画の一環として、横浜港・東京湾の水環境をよくする機能がある藻場を増やすための取組を実施してまいりましたが、このたび、新たなアマモ場再生の実証試験場として、臨港パーク潮入の池前面に浅場を整備しました。

造成した浅場は、アマモ場再生等の実証試験場として「一般財団法人みなと総合研究財団」に開放し、今回、「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」「NPO 法人海辺づくり研究会」の協力のもとで、浅場を作るための砂入れ、アマモのタネまき等を実施します。

※浅場の砂入れ、タネまき等の実施についての詳細は、「一般財団法人みなと総合研究財団」へお問い合わせ下さい。

別紙・参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [277 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/pa_00000304.html

2. 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会「わたらせシールラリー2020」を開催します

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
(部会事務局：栃木市、小山市、利根川上流河川事務所)

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会では、渡良瀬遊水地関連のイベントへより多くの方の参加を促し、渡良瀬遊水地の魅力を伝えるとともに、渡良瀬遊水地の普及・啓発に資する新たな人材の発掘・育成につなげることを目的として、「わたらせシールラリー2020」を下記のとおり開催しますのでお知らせします。

尚、イベントへ参加し「渡良瀬遊水地ロゴマーク」シール1枚以上を含む合計7枚の「わたらせシール」を集めてご応募いただいた方を「渡良瀬遊水地マスター」と認定し、令和3年7月に開催予定の第9回協議会にあわせて認定証及び記念カードの贈呈式を実施する予定です。

記

- 1.実施期間：
令和2年1月1日(水)～12月31日(木)
- 2.対象イベント：
期間中に開催される渡良瀬遊水地関連のイベント
- 3.応募方法：

渡良瀬遊水地を構成する 4 市 2 町の各担当課へ郵送又は持参


4.応募締切：

令和 3 年 3 月 1 日(月) ※当日消印有効

5.その他：

シール台紙(チラシ)は構成市町のホームページから印刷可能です。

別紙・参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [156 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/tonejo_00000162.html

3. 東京港臨海道路南北線沈埋トンネルの名称決定について

東京港湾事務所

東京港湾事務所では、国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う東京港において、円滑な物流機能を確認するため、中央防波堤地区と有明地区を結ぶ海底トンネル『臨海道路南北線』(本文資料(PDF)別紙 1)について、令和 2 年春頃の完成を目指し、整備を進めています。

この新たに海底に誕生する沈埋トンネルの名称案について一般公募し、東京都と連携しながら検討しておりましたが、このたび名称を決定しましたので、お知らせいたします。

なお、今後は名称当選者の表彰式、応募者特典(現場見学ツアー)を予定しております。

1.名称

東京港海の森トンネル(愛称：海の森トンネル)(本文資料(PDF)別紙 2 参照)

2.その他

同時期に一般公募しておりました東京都の「東西水路横断橋(仮称)」の名称も決定しました。(詳細は URL: <https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/hashimeishoukettei.pdf> をご覧ください)

東京港湾事務所ホームページ URL

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/tokyo/>

別紙・参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [469 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/tokyo-p_00000044.html

4. 国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」グランプリ 「松代文化財ボランティアの会／長野市」関東地整から初の受賞！！ ～長野市松代町の優れた取り組みを全国へ～

関東地方整備局
企画部

■手づくり郷土賞受賞記念発表会～グランプリ 2019～

令和元年度手づくり郷土賞に選定された団体の活動報告を通じて優れた取組が全国に広がることを目的に、全 24 団体(一般部門 20 団体、大賞部門 4 団体)による受賞記念発表会が 12 月 14 日に都内で開催されました。

発表会では、選定団体がプレゼンテーションを行い、手づくり郷土賞選定委員の審査により、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定しました。

大賞部門では長野市松代町の「松代文化財ボランティアの会／長野市(共同応募)」が関東地方整備局管内では初となるグランプリを受賞しました。

グランプリ 2019(大賞部門)

- 案件名：城下町松代に学び、城下町松代を育む
団体名：松代文化財ボランティアの会・長野市(長野県長野市)

グランプリ 2019(一般部門)

- 案件名：川で遊び、川に学び、川と暮らす「おとがワ！ンダーランド」
団体名：おとがワ！活用実行委員会・岡崎市(愛知県岡崎市)

ベストプレゼン賞 2019


- 案件名：みんなで取り組む、薬草とハーブのむらづくり
団体名：平原区自治会むらづくり委員会・下市町(奈良県下市町)

※認定証授与式を来年 2 月上旬に長野野市内で予定しております。詳細につきましては別途ホームページでお知らせします。

その他発表会の開催結果については下記サイトをご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000230.html (国土交通省記者発表)

別紙・参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [2203 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kikaku_00000732.html

5. “地域インフラ” サポートプラン関東 ～「技術者スピリッツ」紹介～

関東地方整備局 企画部

関東地方整備局では、年間約 1,200 件の工事を行っています。私どもは、これまで工事の目的や出来上がった際の効果を中心に広報してきました。建設工事は、いわゆる一品生産です。各現場では、品質が良く、地域の方に末永く使ってもらえるものを作ろうと技術者が日々努力をしています。世界に一つだけの工事に携わる技術者に光をあて、関東地方整備局ホームページ (http://www.ktr.mlit.go.jp/gi_jyutu/index00000022.html) にて紹

介しています。

(現在、302 話まで掲載中)

是非ご覧いただき、「喜ばれるものを作る」奮闘する技術者の魅力が伝われば幸いです。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000022.html>

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 水深が床面を超えたら、もう危険！

－ 自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合について －

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。

今年の台風 19 号等による大雨においては、自動車が水没する等により、運転者や同乗者が亡くなる事故が相次ぎました。

自動車は、エンジンやモーターで駆動し、電気装置により制御されているため、水深が車両の床面を超えて車内へ浸水すると、様々な不具合が発生するおそれがあり、最悪の場合、エンジンやモーターが停止して移動できなくなります。また、水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難となり、ドア高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなります。

国土交通省では、国内乗用車メーカー 8 社に対して、自動車が冠水した道路を走行した場合に生じ得る不具合等について調査を行い、その結果を踏まえ、「自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合」を別紙のとおりまとめましたので、公表します。


※1 浸水による車両への影響については、車両形状や設計により異なります。

※2 一度浸水した車両は、運転可能であっても、電気装置等が損傷を受けているおそれがあるため、自動車整備工場等で点検整備を受けるようにしてください。

詳細については別紙をご参照ください。

添付資料

[報道発表資料](#) (PDF 形式 : 228KB) 

[別紙](#) (PDF 形式 : 497KB) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_003565.html

2. ラグビーグラウンド 30 面分の屋上・壁面緑化！ ～平成 30 年 全国屋上・壁面緑化施工実績調査の結果～

平成 30 年は屋上緑化は約 16.1ha、壁面緑化は約 4.6ha が新たに施工されました。

「東京ミッドタウン日比谷」や、「日本橋高島屋 S.C.新館」など商業施設において大規模で複合的な屋上・壁面緑化が施工される事例の割合が増加しました。

1. 平成 30 年の特徴的な傾向

屋上緑化および壁面緑化の施工面積において、「商業施設」の割合が増加しており、特に屋上緑化では平成 30 年は統計開始後初めて、全体の 2 割を越えました。

詳しくは報道発表資料の「トピック」、「1) 屋上緑化・壁面緑化の施工の概要」をご覧ください。

2. 調査結果（施工面積）

(1) 単年施工面積

平成 30 年中に、屋上緑化は約 16.1ha、壁面緑化は約 4.6ha の合計 20.7ha が施工されました。

これは、ラグビーグラウンド約 30 面分の緑化が創出されたこととなります。

※ラグビーグラウンド：100m×70m=7,000m²（フィールドオブプレーの面積）

(2) 累計施工面積

調査を開始した平成 12 年から平成 30 年の 19 年間で、屋上緑化は約 516ha、壁面緑化は約 95ha が創出されました。


※本調査は最大 3 年間遡った回答を依頼しているため、平成 29 年、30 年データは暫定値であり、今後数値が変わる可能性があります。


（参考）調査の概要

- [1]調査方法： 郵送によるアンケート調査
- [2]調査対象企業： 全国の造園建設会社や総合建設会社
屋上・壁面緑化関連資材メーカーなど 計 541 社
- [3]回答回収状況： 回収 272 社(回収率 50.3 %)
- [4]調査期間：平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月

添付資料

[報道発表資料](#)（PDF 形式：759KB）

[調査協力企業リスト](#)（PDF 形式：12KB）

[参考資料（Excel版）](#)（Excel 形式：92KB）

詳しくは国土交通省ホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000335.html

3. 新たな担い手による水源地域の振興のあり方とは ～水源地域の振興のあり方に関する検討会報告書の公表～

平成31年2月より全3回で開催されました「新たな担い手等による今後の水源地域振興のあり方に関する検討会」についての報告書を取りまとめましたので公表いたします。

水源地域振興は、ダム建設によって基礎条件が著しく変化する地域の生活再建や地域振興を主な目的としてハード整備を中心に実施されてきましたが、当該地域の振興にとどまらず、流域全体の水源確保や災害予防・国土保全の観点からも重要な役割を担ってきました。

こうした水源地域の持つ重要な役割に鑑み、水源地域を将来にわたって存続させていく必要がありますが、水源地域が自らの力のみで振興を継続していくことが困難な状況となっています。一方で、個々の水源地域を見れば、地方創生の取組など先進的な事例が各地で見られるようになりました。

こうした背景を踏まえ、平成31年2月に「新たな担い手等による今後の水源地域振興のあり方に関する検討会」を設置し、今後の水源地域振興のあり方について議論を行ってきました。今般の検討会の報告書が取りまとめられましたので公表いたします。

報告書では、

- ・ 水源地振興における流域連携の為の施策テーマについての短期的視点及び長期的視点
- ・ 地域振興、地域連携における新たな担い手導入を含む人材育成及び組織創設
- ・ 水源地域振興を流域全体の取組とする下流へのアプローチ
- ・ モデル的事業実施によるプロセスの整理・記録及び本情報の他地域への展開

等が示されており、この内容をもとに、今後、国において適切な施策の推進を期待するものです。


検討会の開催状況、資料等は、以下の URL に掲載しています。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr3_000011.html

添付資料

[報道発表資料](#) (PDF 形式 : 128KB) 

[新たな担い手等による今後の水源地域振興のあり方に関する検討報告書](#)

(PDF 形式 : 2,592KB) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/water03_hh_000054.html

4. まちの想定浸水箇所を把握しましょう

～まちなかに水害からの避難行動に有効な情報を表示する取組を推進します～

今年度発生した台風や豪雨による被害を踏まえ、地域の方々が日常的に想定浸水深や海拔を把握し、早期の避難や対策に役立てて頂くため、本日付で「まるごとまちごとハザードマップ」(※1)及び「海拔表示シート」(※2)の整備の推進について文書を発出しましたので、お知らせいたします。

※1 水害ハザードマップの更なる普及浸透等を目的として、関係市区町村と連携して生活空間である“まちなか”に水防災にかかる各種情報を表示

<まるごとまちごとハザードマップ>


<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/marumachi/>

※2 津波や高潮等による被害の軽減を目的として、道路利用者に海拔情報を提供するために道路施設等での海拔情報の表示

<海拔情報の提供>

<https://www.mlit.go.jp/road/kaibatsu.html>

添付資料

[報道発表資料](#) (PDF 形式) 

[添付資料](#) (PDF 形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000113.html